

■冷蔵庫乱雑

■財布なくす

■食事忘れる

アルツハイマー型認知症かも…

生活障害気付いて

アルツハイマー型認知症が進むと、記憶障害だけでなく、日常生活にも困難が始め、さらに進むと、食事や着替えなども一人でできなくなると、認知症の中核的な症状は、これまで「ADL(日常生活動作)障害」という分りにくい用語を使ってきたため、浸透度はいまひとつだった。

今後は代わりに「生活困り方が違う。食事や生活障害」を使うことに排せつ、着替え、入浴など、厚生労働省や医療関係者は、認知症の理解が進むと期待している。

香川大医学部の中村祐教授(精神神経医学)は「アルツハイマー型認知症で『物忘れ』は受診の動機にはなっているが、実際に受診するのは『生活障害』、つまり日常生活で困ったことが起こってから『普通』と話す。

生活障害といってもさまざまな段階がある。『都会と田舎では』

■介護の負担

アルツハイマー型認知症の生活障害では、特に買い物と服薬の二つ、女性の場合は食事の用意が加わって三つ

早い投薬が進行防ぐ

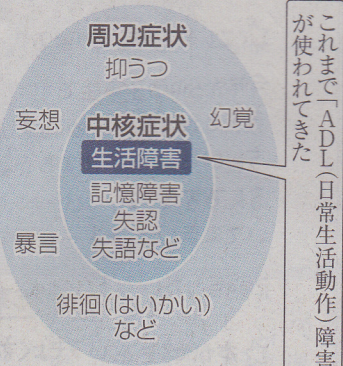
さらに生活障害が進むと、当然、介護の負担が大きくなる。

くどくどあき脳神経外科クリニック(東京都大田区)の工藤千秋院長は「アルツハイマー型認知症は明らかにおかしくなる前に初期段階で見つけ、早く投薬することが大事。見つけ方の秘訣は三つある」と指摘する。

■パッチ剤も

①「食事はいつ(取)を治すものではないか、(?)などの質問を、自分で答えず、長くと同じ状態を維持すべく同伴者の方を向い

アルツハイマー型認知症の中核症状と周辺症状



て応援を求める②財布を見る。買い物で計算ができない人は一万円札ばかり持っていたり財布を忘れてくす人は財布が新しい③冷蔵庫の中をぞく。印鑑など冷やさなくていいものや同じ物が入っていたり、しまいがちになっていく。

「生活障害の抑制の点からは、リバスチグミン(成分名)が国内臨床試験で、明らかに効果があることが分かる」と中村教授。4薬の中では、唯一のパッチ剤(貼り薬)なので、飲み忘れることもなく、介護者の負担軽減にもなりそつだ。「パッチ剤でどのくらい介護者の負担が軽減するか、34例の患者で調べてみた。スタートから8週間後で平均22分、12週間後で同35分、介護時間が短くなっていた。介護者を疲れさせない意味があると思う」と工藤院長。

「認知症の治療薬は一度中断すると患者さんは一段と悪くなるので、中断を防ぐことが大事。特に高齢者は肺炎で入院することがあり、その際、肺炎では飲み薬を全部止められ、点滴だけの治療となる。貼り薬の認知症薬は非常に有効で、存在意義がある」と話す。